

## 【歴史点描 9】 三石天満神社と水

山陽電車網干駅の北に三石天満神社があります。御祭神は菅原道真です。

網干三ヶ村の灌漑用水の確立と旱害から逃れることを祈願して三石大明神という地神様の祠が祀られていたと思われませんが、慶安3（1650）年に天満宮を勧進、後に大覚寺末三石山正福寺という修験道系の寺院の開祖も大覚寺資料に見えます。

余部区上余部の出水（ですい）を源とする蟠洞川（ばんどうがわ）の一流が天満宮辺りへ届きますが、南平野部の灌漑用水を廻る水争いは絶えず、この流れに三つの石堰が設けられました。石には堰板をはめ込み米の収穫高に応じて板を抜き水を流す仕組みをつくり、これが三石の名の起こりとなりました。

「余子浜村享和2（1802）年の明細書」『網干町史』には、上余部村の坂東ヶ淵という出水に網干三ヶ村が立ち合い、杭木や土俵、さらに人足を三ヶ村より連れてきて井堰を作ったこと、用水区分による田地の高や網干三ヶ村水入賃割賦が記されています。

網干歴史講座 会員 小林 淳子

\*網干三ヶ村：新在家村・興浜村・余子浜村

\*参考文献：『郷土網干学習資料 網干歴史散歩』

『姫路市立網干公民館 古文書学習会 カルチャー通信』



三石天満神社



蟠洞川水源辺り